大型水チェレンコフ検出器

東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設 塩澤 真人 Thanks to Super-K collaboration T2K collaboration NND (Neutrino & Nucleon decay Detector) group

研究目的(レプトンCP測定と陽子崩壊)
検出器のR&D(日本と少し海外)
まとめ

ハイパーカミオカンデ

Outer Detector

Inner Detector

Access Drift

TICO

Plat form

Liner

Opaque Sheet

リングイメージング水チェレンコフ検出器

Length 250m

Photo-Detectors



Super-K 50kton total 22kton fiducial

Height 54m

Hyper-K 1Mton total vol. 540kton fiducial vol. 内水槽 {D43m x L(5x50m)} x 2 PMT ~100,000 (20inch) (センサーの被覆率20%)



Water Purification System





大気ニュートリノによるôcr sensitivity



大気ニュートリノでも、θ13, δの値によっては、感度がある。 (他にも質量階層性、θ23 octant) ←→加速器ニュートリノと大気ニュートリノ研究を相補的に進める。 2009年9月5日将来検討小委員会

陽子崩壞p→e⁺π⁰ channelの探索





SK-II (half PMT) forward-backward display for $p \rightarrow e^+ + \pi^0$

2009年9月5日

Selection Criteria

- 2 or 3 Cherenkov rings
- All rings are showering
- 85 < M_{π0} < 185MeV/c² (3-ring)
- No decay electron
- $800 < M_{proton} < 1050 \text{ MeV/c}^2$ $P_{total} < 250 \text{ MeV/c}$

*for Next Generation, tighter cut Ptotal<100MeV/c may be applied

✓ <u>PMT半分(被覆率20%)での測定精度</u>
 →Super-K phase-II data/こより、確
 認済(PRL102:141801,2009)

✓ <u>大気v BG頻度</u> →K2K v beam/こより確認済 (PRD77:032003,2008)





 $p \rightarrow e^+ \pi^0$ 期待される感度









(full density) forward-backward display

SK-I + SK-II 0.14Mtyr → 2.8 x 10³³ yrs @ 90%CL HIK(0.5 Mt):10years 5Mtyr → ~2 x10³⁴ yrs @ 90% CL



<u>大気ニュートリンの精密観測</u>

 δ, θ13, 質量階層構造 (sin²θ13 >~0.01)
 θ23<π/4 or θ23=π/4 or θ23>π/4

• <u>超新星爆発ニュートリノ</u>

- 爆発のメカニズムの解明
 質量階層性?
- 太陽ニュートリノ
 - 昼夜のフラックス差(地球によるニュートリノ振動の測定)
 Hepニュートリノの測定



カミオカンデ、スーパーカミオカンデの実績 →水チェレンコフ検出器の技術は証明済。

 ・大型化(100万トンサイズ)により発生する困難(大空洞など)の 解決が必須
 ・ 生産性や建設時間、コストの改善、最適化が望まれる

大空洞
 水槽、水
 光センサー+エレキ
 物理の感度



- **、**大空洞
 - サイトの評価(地質図、岩石の物性、地圧等)
 - 空洞設計(配置、形、大きさ)
 - 掘削コストの削減(掘削方法、ずり廃棄方法)
- 水槽設計
 - プラスチックライニングの実現性(コストダウン)
 - 光センサー取り付け方法
 - 透過率低下の問題がないか?
 - 水質悪化原因の理解。水槽内物質の選択。
 - 水質、水量調査、純水システム設計
- PMT+読み出しエレクトロニクス
 - Hybrid Photo Detector (光電面+シリコン検出器)
 - 大型High QE PMT
 - 最適なPMTサイズの決定(QE,防爆ケース)
 - 読み出しエレクトロニクス設計
 - 防爆ケース(デザイン+防爆の実証試験)
- 物理感度の研究
 - T2K, 大気ニュートリノ、陽子崩壊









クラックテンソル解析

- ・ 亀裂岩盤を異方弾性体として表現した有限要素解析
 ・ 初期応力は土被り圧、等方と仮定
- 水槽の向きは南北方向





せん断ひずみ>0.3%が2.5m

空洞壁の変位分布 (赤が~100mm)



変位が中央で55mm

水槽の方向は南北方向がベター(亀裂が東西方向に多い) 大空洞の実現可能性を示した。

光センサー、エレキ





さらなる改善(コストダウン、生産性、性能UP)
 High QEの技術開発はコストダウン、センサーの小型化を可能にする
 防爆ケースがなくせるか?センサーの小型化?強化?
 エレキの概念設計
 他にコストダウンにつながる開発がないか?







Memphys – Water Čerenkov en Europe



Major Milestones (DUSEL LBL)

- Large Cavity Design Supplement May 2009
- Proposal to Prepare Preliminary Facility Design & Integrate the Suite of Experiments: submitted 15 May 2009
- NSF Solicitation to Develop Experiments (S-4) Results: anticipated ~ July 2009
- S-4 Work Shop in South Dakota: 1-5 Oct 2009
- Preliminary Design Complete: fall 2010
- Presentation to NSB: spring 2011
- Construction Start: 2nd Quarter 2013



- 確立した水チェレンコフ技術 豊富な研究テーマ(素粒子、宇宙) - ニュートリノ精密研究(加速器、大気、超新星爆 発、太陽) - 陽子崩壊 検出器の設計を早急にまとめる。同時にR& Dの推進
 - 国際競争の激化(US, Europe)
 013の発見が来年にもあるかもしれない